

有料老人ホーム入居者の実態の調査研究

名古屋女大家政 大野 庸子

【目的】高齢者の住まいとして、近年急増した有料老人ホームについて、入居者の意向を伺い、老後を安心して暮らすための指標を得ることを目的としてこの調査を行った。

【方法】 アンケート調査 対象：有料老人ホーム入居者。最近10年以内に設置された施設。愛知県他で5施設。配布数：345部。回収数：190部。調査内容：入居者の社会的属性、経費と負担感、施設設備および生活面の満足度など。

【結果】 回答者の性別：女性70%、男性30%（夫婦27%）。年齢：70代54%、60代17%、その他29%。入居の決定：自分75%。体験入居：しなかった56%。入居直前の住まい：一戸建持家72%。転居意向：ない96%。施設設備などに対する満足度：上位よりホームの設備、部屋の設備、部屋広さ、つき合い、介護体制、サークル活動。収入源：年金53%、利子38%、年間収入：200～400万円台70%。入居金：2000万円台45%、1500～2000万円未満26%、3000～5000万円未満11%。負担感：入居金—60%以上の負担感をもつ人42%、20%未満の負担感36%、管理費—60%以上48%、20%未満30%、食費—60%以上32%、20%未満40%、光熱費他—60%以上25%20%未満40%。したいこと：旅行、趣味。

以上、施設設備の満足度は高い。介護時の付添費や、介護に不安を感じている人がある。改善に最大の努力を。入居金の負担は大きい。多様な居住方式が準備されることを望む。